

私たちのくらしと税 ～これからの少子高齢化社会の税について考えよう～

東根市立大森小学校教諭 6学年 三浦 祐介

実施年月日：令和5年6月2日～12月8日 28名

1 実践計画・指導のねらい

本学級でアンケートを取ると、知っている税としてほとんどの子どもが「消費税」を挙げた。他の税金の種類は多くの子どもが知らなかった。また、なぜ税金を払わなければいけないのか、知識としてもっていないのが現状である。アンケートを取る時「増税」という発言が多かった。そこで、税金に対して、ネガティブな印象をもつだけでなく、豊かなくらしを実現するためには税金はなくてはならないものだということを理解させたい。また、日本が抱える少子高齢化にも焦点を当て、税金の必要性や重要性について考えていきたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通じた全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、子どもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	<ul style="list-style-type: none"> 税金について知っていることや疑問を話し合う。 身近な学校の中で、税金が使われているものを探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 税金って知っていますか。どんな税金を知っていますか。 ● 消費税。（所得税。遺産相続税。増税？） ● 払いたくない。もったいない。 ○ 税金で買ったものは何でしょうか？学校探検をしてみよう。 ● 黒板。テレビ。ボール。というかほとんど税金だ。 ● 校舎って東根市が建てたんだよ。
2	<ul style="list-style-type: none"> 村山税務署の「租税教室」を通して、税の種類や使われ方などを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 税金って何だろう。 ● 50種類以上の税金があるなんてびっくりした。 ● 道路やゴミ処理、教育、消防や警察の仕事も全部、税金が使われている。 ● 税金がないと、私たちの生活が成り立たなくなる。 ● 一億円って重い。 ● 学校に通っているだけで月に75,000円もかかっていたんだ。 □使用教材名 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
3	<ul style="list-style-type: none"> 日本が少子高齢化して働き手が減っていく中で、どの税金を増やせばいいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所得税・法人税と消費税のどちらを増やせばいいのだろう。 ● たくさん稼いでいる人から払ってもらった方がいい。 ● そうしたら優秀な人が嫌になって海外に行ってしまう。 ● 小さい子からお年寄りまで幅広く払ってもらえるから消費税の方がいい。 ● スウェーデンやデンマークは25%の消費税だって。 ● えー。そもそも税金払いたなくなってきた。 ● でも税金なかったらほら、東根市が成り立たないよ。
4	<ul style="list-style-type: none"> 税金について分かったことを「税に関する標語」に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 税金に関する標語を作ろう。 ● これまで学んだ税の大切さを表すにはどう書くかな。

【指導のポイント】<<1時間目>>

税金について自由に発言させたり、クイズに答えたりすることで、税金について楽しく理解できるようにする。（カエル税やウサギ税など過去にあったユニークな税についても取り上げる。）また、身近な学校に置き換えることで、税金の使われ方を実感させる。

【指導のポイント】<<2時間目>>

ゲストティーチャーによる、専門的な話を聞くことで、税について興味・関心をもたせる。
税金についての学習を通して分かったことやもっと知りたいことなどについて感想を書き、今後の学習や生活に生かしていこうとする気持ちをもたせる。

【指導のポイント】<<3時間目>>

「どちらを増やせばいいのだろう。」という発問ではあるが、どちらがいいのか最終的に決めるのではなく、様々な意見や考え方に合わせるようにする。考えのもととなる根拠をもちながら発言するようにさせる。

【指導のポイント】<<4時間目>>

これまでの学習の資料や感想を確認させて、税金に対する思いを標語に表すことができるようにする。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

- ◎ ゲストティーチャーの「租税教室」の学習を通して、講義や動画、1億円のレプリカなどの具体物を活用した学習は分かりやすく児童は関心をもちながら税金の意味や必要性を理解することができた。
- ◎ 税の必要性を理解したところで、少子高齢化問題の要素もいれて多角的に考えることで、児童からたくさんの意見や思いがでてきた。社会の一員としての自覚が芽生え、将来の日本のことを考えることができた。
- ◆ 東根市の税収などには触れたが、市役所の方に詳細に説明してもらおうなど、地域との関わりを構成に入れる工夫もあった。